



右図の如く、當時立毛の中に候得ば、甚通路
悪敷、サイミと云、七八尺程有之竹の先へ、わら
を結付、畠の四方へ建、其間に四方へぼんでん（梵天）
を建、夫より繩を十文字に張、三方にて四方を
た（矯）め、細見・ぼんでん、真直に見通す。夫より繩の十
文字になり候処へ壱人立居、十字を入れる。

此十字  如此文字の内、みぞをつき、縄の十
文字へはいり候様に致す。如何様成まがり畠にても
四角に見込直す。右十文字真直に入候得ば、四方
長短有之候共、角に成候。畠毎、村役人帳面に記し

置、絵図面共持之、持主も罷出居。夫より御役人大音にて「元歩」と御呼被成るゝ。読み人字何十何番、原畠何畝歩、見付何畝歩是を上見付と云ふ。何村何右衛門と読、それを御書留被成候て、十字の縄の先へ御廻り、縄引に声をかけさせひっぱる。御役人の杖に寸尺を記し置、「長」と呼ば、「長」と答、何十何間、何尺何寸と読。三方の御役人御書留、

「読合す」と答、「其事へ」又は「つけたり」等と云。尤村役人も其通り記し置。御奉行は右繩張の畠畔に床机を直し腰をかけ、御覽被成るゝ。夫より次の畠へおくる。前の如し。はたをへる如くにして始へ繋ぐ、四方の内芝地等御覽被成。芝地に一品有り。草芝地、木柴地と云。芝地、柴地如此。扈前一度御休み、其節、右見合反畠に被成候由。御弁当は松林其外木陰に御休み被成るゝ。此所に火を焚き、茶釜にて湯をたぎらせ、土瓶数多へ煎茶を入れ、夫々に出す。御弁当終り、御書留の帳御調べ被成、村役人へ読合せ被仰付。誠に字より畠に直し候所迄、一口つゞけに御読被成、其早き事いなづまの如くにて御改の反畠、一ト筆づゝ此方の帳へ記し候が、間に逢不申程。

夫より「反別くゝり、古反別に差引、出歩御改被成候由。当村新田、小又共、廿一日より廿五日扈時迄に済。右廿二日、御弁当、神戸新田定の坊方。

「讀合す」と答、「其事々々」又は「つけたり」等と云。尤村役人も其通り記し置。御奉行は右繩張の畠畔に床机を直し腰をかけ、御覽被成るゝ。夫より次の畠へおくる。前の如し。はたをへる如くにして始へ繋ぐ、四方の内芝地等御覽被成。芝地に一品有り。草芝地、木柴地と云。芝地、柴地如此。辰前一度御休み、其節、右見合反畠に被成候由。御弁当は松林其外木陰に御休み被成るゝ。此所に火を焚き、茶釜にて湯をたぎらせ、土瓶數多へ煎茶を入れ、夫々に出す。御弁当終り、御書留の帳御調べ被成、村役人へ読合せ被仰付。誠に字より畠に直し候所迄、一口つづけに御讀被成、其早き事いなづまの如くにて御改の反畠、一ト筆づゝ此方の帳へ記し候が、間に逢不申程。